



小学校のよさをいかす

校長 荒井 健

4月23日（火）、恒例の「1年生を迎える会」が、今年も実施されました。温かく1年生を迎える2～6年生、そして、「よろしくお願ひします」という気持ちを一生懸命伝えようとする1年生の姿に、毎年のことながら、小学校のよさを感じました。

今まで、幼稚園や保育園に通っていたような新1年生から、中学生に近づきつつある6年生まで、学年によって発達段階が大きく違う子どもたちが、いっしょの空間で生活し、学習している、ということの意義は、子どもたちの成長にとって大変大きいことです。

新1年生とは言っても、幼稚園、保育園に通ってきた子どもたちは、つい最近まで「年長さん」としてそれぞれの園でリーダーとして活躍してきたことと思います。きっと、最下級生としての扱っただけでは物足りなく感じることと思います。今まで培ってきた力と、やる気を発揮して、大活躍してくれることを期待しています。

また、他の学年にしても、発達段階に応じた力を発揮しながら、日々成長しています。

それぞれの学年の子どもたちを改めて比べてみると、この6年間の成長ぶりに驚かされるばかりです。身長だけ見ても、個人差はありますが、30cm前後伸びます。様々な経験を通して、心も大きく成長します。

こんな成長をとげてきた6年生とも関わりをもちながら、1年生をはじめとする下級生は、成長していきます。

また逆に、下級生がいるからこそ、上級生が育つという面もあります。

日々の生活の中での関わりに加え、毎日の登校班や、なかよし班での縦割り活動は、6年生を中心とした上級生が下級生と関わり、成長を助けるとともに、自らも成長する貴重な場となっています。

現6年生を1、2年生の時に担任した後、3年間他校で勤務し、今年度、家庭科専科非常勤講師として再度本校勤務を開始した塚本かず子教諭に、現6年生に再会して感じたことを聞いたところ、次のような答えが返ってきました。

- ・落ち着いて学習に臨んでいる。
- ・友達どうし、助け合おうとする姿が見られる。
- ・下級生の面倒を優しく、しっかりみていこうという心が育っている。
- ・委員会活動に丁寧に取り組むなど、学校全体をよくしていこうとする意欲が感じられる。

「3年間の間に、こんなに素晴らしく成長しているとは」と、とても驚いていました。

この1年生から6年生までいるよさ、というのは、子どもたちにとってだけではなく、小学校に勤務する教職員にとっても、大きな意義のあるものです。いろいろな発達段階の子どもたちがいるということは、難しさ、大変さもありますが、そこには、教職員としての楽しさや発見、学びもたくさんあります。

これからも、このような小学校のよさをいかしながら、日々の教育活動を進めてまいります。ご理解、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

